

昭和村の人物伝(4)

玉田 徳太郎翁

―村や村内の小中学校にプールやテレビなどを寄贈した人物―



玉田徳太郎翁

『利根沼田の人物伝』(高山正著・上毛新聞社)に掲載された、村にゆかりのある人物の中から、今回は玉田徳太郎翁を紹介する。

玉田徳太郎は、森下で明治三十四年(1901)八月十五日、新潟県出身の父曾根音五郎と母いくの次男として生まれた。青年の頃、志を抱いて上京。玉田家へ婿入りし、苦学の末に鉄材方面の仕事に取り組み一代にして成功者となった。

その後、従業員2000人の玉田実業株式会社社長となり、ガス器具界を代表するほどの隆盛を極め、堅実で機敏な実業家として不動の地位を築いた。

ふるさと思いの徳太郎は、昭和三十三年、弟の曾根光男とともに、事業で得たお金で母校の久呂保小学校(南小学校)にグ

ランドピアノをはじめ、暗幕、オルガン、テレビ、放送器具などを寄贈。さらに中学校へもスクーターや放送器具、電気用具、産業教育資材を寄贈した。こうした贈り物は、後世に残るとともに、村民に夢と希望を与えた。昭和三十四年、村を通じ、公益のために多額の私財を寄付した功績のある者に贈られる紺綬褒章が授与された。

その後も善意の行動は続き、昭和三十八年、村へブルドーザーを、昭和四十二年には南小学校へプールを寄贈するなど、本来、地元自治体が行うべき事業に対して積極的に寄贈を続けた。

兄と同様、若い時に苦労を重ねて成功した、弟の曾根光男も大和倉庫株式会社社長となり、郷土の母校に対する寄贈について兄と歩調をそろえた。

地元、森下の遍照寺護摩堂にある不動尊は、古くから三度の火災を免れたものを徳太郎が譲り受け、遍照寺に寄進したもの。玉田徳太郎の出世に合わせ、火防出世不動尊として今日も信仰されている。

参考 村誌久呂保、利根沼田の人物伝

昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



知っておきたい！認知症

◆認知症は一部の人の病気？

認知症は脳の病気によるもので、誰にでも起こりうる可能性があります。

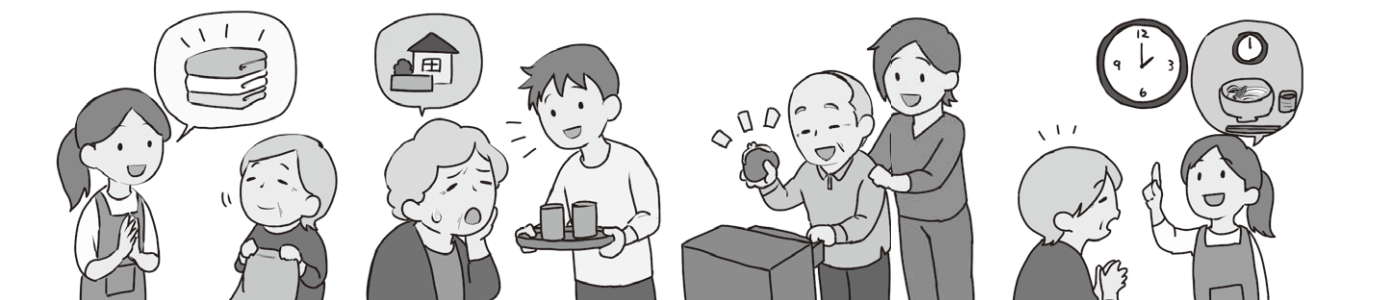
◆認知症は治らない？

早期発見と適切なタイミングで治療やケアをすると、症状を軽くすることができます。

◆認知症は予防できない？

運動・食事などの生活習慣の改善で、認知症の発症を遅らせることができる可能性があります。

認 知症は進行する病気なので、早めの対応が肝心です。何度も同じことを言う・聞く、テレビの内容が理解できなくなった、身だしなみに気をつかわなくなった、怒りっぽくなったなどの症状が早期発見の目安となります。気になる症状があったら、まずはかかりつけ医に相談しましょう。かかりつけ医がない場合、ご質問や心配事はお気軽に地域包括支援センターにご相談ください。



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

